



社会福祉法人つるかわ学園
つるかわ学園を支える会
☎195-0051
東京都町田市真光寺町
186番地
T E L (042)735-2220
F A X (042)736-6374
HP:tsurukawa-gakuen.com

荒々しい夏から...

つるかわ学園施設長

丸山文弘

今年の東京の夏は、非常に荒々しく過ぎ去りました。

六月の梅雨明けの後は、連日の酷暑続き。これでもか、これでもかと最高気温が三十五度を越えてきました。夜の気温も、二十五度より下がることもありません。また、雨が降る日も殆どありませんでした。それが、お盆のころにやってきた大きな双子台風が日本を過ぎたあたりから様子が変わり始め、一週間後にやってきた、これまた双子台風で状況が一変しました。その台風が通過した以降、二週間ほどは太陽が顔を出すこともなく、最高気温が二十二程度と、十月中旬から下旬の気温といふことでした。大雨、少雨、酷暑、日照不足、低温・・・と、一年単位で繰り返される出来事が、この夏はすべてが網羅されていました。

この夏の気象現象は、「天災」と

いう一言で済ませてはいけないうように感じます。これは「天災」ではなく「人災」です。予ねてから、地球が温暖化してきていると叫ばれていながら、地球規模での対策をとることができなかつたツケが、この夏の現象を引き起こしています。現在でも、北極・南極の氷河が消失し続いています。何とかしないとといけません。

さて、目を私たちのいる福祉業界に転じてみれば、そこにも現在、非常に荒々しい風が吹きます。

まず、「社会福祉法人改革」にもなう様々な制度改革です。かつて、福祉業界は社会福祉法人でなければ事業そのものを実施することができませんでした。しかし現在では制度改革がなされ、高齢者福祉分野をはじめとして、障害者福祉分野においても、株式会社等が介護及び支援の事業に参入してきています。そこで大きく取り沙汰されたのが、同じ事業を実施しているのに、社会福祉法人には課税されないのに株式会社等は課税される。このことは不公

平であり、社会福祉法人にも課税するべきだ(イコールフットイング)ということですが、確かに社会福祉法人は課税されないという事実はあります。しかし、株式会社等は利益・利潤を追求する組織体です。その利益・利潤が上がらなければ、事業から撤退するしかありません。それに引き替え、社会福祉法人は利益・利潤を上げることを目的としてはいけないう組織体です。実際につる

かわ学園においても、地域ニース・地域貢献の考え方から、収支に合わない事業を実施しています。株式会社等だと、このような事業は絶対に手を出さないのになあと思うのですが、なかなかその考え方が本流にはなってくれません。それは、社会福祉法人を取り巻く、様々な不祥事が続いたということが背景にあることは否めません。

この「社会福祉法人は利益を上げてはいけない」という考え方にからんで、一部マスコミによる一大キャンペーンが張られたことがありました。つまり、利益を上げたらいい組織体なのに、随分と資産をため込んでいるじゃないか、これはおかしいというもの（内部留保）。

確かに、私たちから見ても考えられないような資産を残している社会福祉法人もあつたのでしよう。しかし、大多数の社会福祉法人は、その年に残ったお金を今後控える大規模な施設修繕等のために積み立てて

います。利益を上げてはいけないからこそ、残さなければいけないのです。

ただ、やはり社会福祉法人の側から、どうしてお金が残っているのかという発信が不足していたというのも事実です。これからは、何の必要があり積み立てている資金なのかということを確認していく必要があります。また、それが求められています。

この他にも、かなり細部にわたつての社会福祉法人改革案が提示されてきています。たとえば、一部理事による法人・資産の私有化・私物化を防ぐための制度改革があります。社会福祉法人には、理事会と評議員会という組織がありますが、これまでの組織としては理事会の動きを牽制できない。もつと評議員会の理事会に対する監督機能を強化しようというものです。また具体的な内容は完全に示されたわけではありません。しかし、来年度から実施するということだけは決定しています。かなりハードな動きとならざるを得ませんが、つるかわ学園としても対応しなければなりません。

社会福祉法人としてのつるかわ学園をとりまく環境は、厳しさを増すばかりですが、これまでと同様に、真摯にそして誠実に事業運営及び利用者支援を行ってまいります。

どうぞ、今後ともよろしく願っています。

東京都地域移行促進 コーディネート事業



地域生活支援主任
近藤 洋

平成二十七年でも東京都から、東京都地域移行促進コーディネート事業を受託し、丸山施設長を中心にして事業を進めています。

今年度は昨年度までの協力施設に加え、八王子・多摩・町田・日野で運営されている入所施設も協力施設の対象となり、全部で十三の入所施設との連携が求められています。

八月に第一回東京都地域移行促進コーディネート事業ブロック会議をつるかわ学園にて開催しました。五施設の職員の参加があり、①つるかわ学園が現在まで実施してきた事業の経過・状況報告 ②事業を通じて見えてきた地域移行の現状や課題の報告 ③各施設の地域移行に関する現状報告を中心にを行いました。

③の報告で多く挙がった課題としては「ハード面・人的にも地域移行はハードルが高い」「利用者がグループホームでの生活を長期的に体験できる環境が必要」がありました。どの施設も利用者の方々が選択肢として施設入所だけでなく、グループホームなど、本人自身で選んで生

活ができるような環境を作りたいという想いがありますが、現実的には条件を整える(法制度を満たす)事が難しい状況でありました。課題に対して具体的に「なにをどのようにする」という結論には至りませんが、今後話し合いを重ねていき、解決などの糸口を見つけ、利用者の誰もが安心して地域生活にチャレンジできるように、また利用者が地域に向かって今後、活躍できるような話し合いをもつという、共通認識がもてました。

ソフトボール大会 ボウリング大会



東京都町田通勤寮長
三階 広明

通勤寮にはいくつかの余暇活動がありますが、そのうちの一つが「ソフトボール」です。

ソフトボールは、年間三つの大会(関東地区通勤寮大会(四月)、都障害者スポーツ大会(八月)、ゆうあい大会(八月))があり、それに合わせて月一回ですが小学校の校庭を借りて練習を行っています。

今年度は、関東地区通勤寮大会が中止となり、二つの大会に参加し、ともに三位という成績でした。(詳

細はつるかわ学園ホームページより「通勤寮だより」をご覧ください。担当者「熱い」報告が載っています。



チームとしての悩みは「選手(戦力)不足です。以前は、男性利用者さんの半数の方は練習を含めて参加していたのですが、土曜日にも出勤する利用者さんが増え、練習参加が4~5人ということも多く、なかなかチーム練習というわけにもいかず、個人練習が多くなっています。また、私の世代では「野球」が遊びの中心でしたので(それしかなかった?)何となく体もついていくのですが、今はサッカーやバスケットボール世代のようで、野球の経験が少なく「投げる」、「打つ」、「捕る」という事に慣れるまで時間がかかる利用者さんが多くなっているように感じます。

さらに、選手の多くが通勤寮からグループホームに移行した利用者さんになってきており、「町田通勤寮OB」チームの雰囲気にもなっています。(これは町田に限らず、他の

通勤寮も同様の傾向があり、大会参加自体を見送っている場合もあるそうです。

来年度以降、「ソフトボール」が継続していけるのか「新戦力」の確保が力ギとなりそうです。

ボウリング大会は年二回、納涼会と忘年会に合わせて行われます。個人戦(三位まで)とチーム戦(優勝)で表彰があり、豪華な(?)賞品が用意されています。(残念ながら職員は「オープン参加」となり賞品はもらえません。)

利用者さんの中にはボウリング初体験に近い方から、大会前には自主練習に何回も行って密かに優勝を目指している方まで、毎回賑やかな大会になります。今回の入賞者は、ハイレベルの戦いだっ

たように思います。ソフトボール、ボウリングだけではなく、それぞれが自分の楽しみを見つけ、リフレッシュをしていくための、何かを持てるようになってもらえることはうれしいことです。



フクシア便り

地域生活援助センターフクシアセンター長 市川 嘉



とてつもない暑さがやっと終わりを告げたようで、これからは過ごしやすい日々が送れそうです。

さて、地域生活援助センター「フクシア」では十一月から十二月にかけて新しいグループホームの開設を行う予定です。既に名称も「(仮称)つばさ寮」とし、定員は六名を考えています。場所は、南成瀬小学校グラウンドそばの閑静な住宅街にあります。十世帯の比較的小規模なマンションの二階部分の四部屋で、既に契約を結んでいます。

既存のグループホーム「わかば寮」利用者四名を開設予定の「(仮称)つばさ寮」に入寮してもらい、通勤寮からのグループホーム利用希望者四名を受け入れ、六名定員予定です。
通勤寮からのグループホーム利用希望者六名のうち四名が「(仮称)つばさ寮」に、残りの二名は「わかば寮」に入寮して頂きます。したがって、合計六名の通勤寮卒業者が「フクシア」の仲間になります。

住環境は二LDKの間取りに二名が入寮することになっています。世話人室もすぐ横にあり、週に二〜三回宿泊してくれることになっています。安心して生活が出来る環境と言えます。しかし、通勤寮生活とは異なり地域生活ですので「自分のことは自分で考え、たとえ失敗をしたとしても自分で責任を負う」ということとなります。甘えは許されず厳しい生活が待っていると云っても過言ではありません。しっかりと目標を持って頑張ってもらいたいと思っています。

地域生活援助センター「フクシア」は現在六十五名の利用者が生活しています。今回の新規開設で合計七十一名となり、益々規模が大きくなっています。今後も毎年のようにグループホーム入寮希望者が予想され新しいグループホーム新設が求められます。

入寮者が増えれば当然として職員(世話人・生活支援員)の雇用が必要になってきます。現況の日本では

「人材不足」が深刻で「売手市場」が続いています。

福祉サービスはやはり人的サービスが基本なので何としても雇用をめざしたいとの気持ちは強いのですが・・・。頭が痛い話であります。

つるかわ学園職業準備支援センター活動報告

つるかわ学園職業準備支援センター長 滝島弘之



つるかわ学園職業準備支援センターが開所してまもなく六年になります(平成二十一年十一月〜平成二十四年六月まではプリコラーシユのぶたの空として多機能型事業所)。開所から現在までの間に三十名の方が企業等への就労を実現してきました。

現在十八名の方が利用しています。就労経験の少ない方が多く、そのため月に一回障害者雇用企業の見学を設定したり、所内で就労講座(働く上で大切なこと等)を設定したりして職業イメージを作る取り組みを行っています。

しかし年々就労経験の全くない方が増え、より具体的に働くことイメージ作りをしていく必要性を感じ



ていました。そこで所内で何ができることはないかと思ひ、八月から企業様の協力により、委託作業を訓練の一環として実施しています。作業内容は主に食品商品見本の作成です。委託作業には工賃が発生するため、これまで以上に正確性を意識し、責任感をもって作業に取り組む姿勢が求められます。またチームワークを意識することなど、委託作業ならではの学びを得ることが出来ます。

今後も企業や関係機関と連携し、利用される方が自分の興味や適性に合った就労先を適切に選択することができるよう、多彩な訓練内容を提供していきたいと思ひます。

つるかわ学園
ホームページ

日常のようす、行事のお知らせ等がご覧になれます

アドレスはこちら!!

HP: tsurukawa-gakuen.com



町田市障がい者就労・生活支援センターりんくでは、企業等で就労している登録者を対象に「りんくサタデー」という生活講座を開催しています。

りんくサタデーのテーマとして取り上げている内容のほとんどは、一般就労して社会で活躍する人にとっては避けることのできない問題ばかりです。

今年度は「金銭問題」や「犯罪(薬物等)から身を守る」などをテーマにしています。毎回二十五名ほど参加し、楽しく真剣に学び合っています。障害のある人たちの社会的なトラブルの原因や背景には、本人の責任以外に生活のしづらい社会との摩擦からくるものも多いと思います。

よく言われることですが、就職はゴールではなくスタートです。今後も就労している方の生活の質の向上を常に考えながら就労支援、生活支援を行って行きたいと思っています。

りんく
活動報告

町田市障がい者就労・生活
支援センター りんく
センター長 滝島弘之



第二回 つるかわ学園
ふれあいまつり二〇一五
開催に向けて

地域支援部長 芹澤政人

十一月八日(日)に「つるかわ学園ふれあいまつり二〇一五」を開催いたします。

一昨年度まで三十六回続けてきた福祉バザーに代わり、昨年度は、つるかわ学園ふれあいまつりと名称を変更して開催させていただきました。今回で二回目の開催となります。

昨年度の当日は、残念ながら雨天での実施となりましたが、これまでの福祉バザーのつながりから多くの方々に来場して頂き、買い物やステーションでのコンサートを楽しんでいただきました。

現在、ふれあいまつりの担当者を中心として、利用者の方や地域の方々喜んでいただけるようなステーションの企画やミニ福祉バザーの物品受領、地域の福祉団体への場所提供の調整等を行い、開催準備の真最中です。毎年この時期の行事で悩まされているのは天候ですが、今回も雨天決行とさせていただきます。雨天対策は、昨年度で経験しておりますので雨天でも楽しんでいただけます。



るよう検討しています。

これまで多くの方々の支えによって地域行事を開催してきましたが、地域福祉ネットワークの構築については、今後も行事作りも含め地域の方々に情報を発信、連携が図れるように継続して取り組んでいきたいと考えております。また、つるかわ学園の地域行事に関する感想やご意見をいただければ幸いです。

当日は、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



つるかわ学園を
支える会のご案内

「支える会」について

国家的財政困難と世情不安定の中にあつて、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しさの中にあつても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一步の力の支えをこつとした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様の小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。

会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一口年額三千元ですが、ひとり何口か入っていただくことを歓迎、お願いしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

入会方法

入会してくださる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号

〇〇一〇一七一九四〇二九
加入者
社会福祉法人 つるかわ学園